

平成29年度入学試験問題（前期日程）

筆記試験

教育学部 学校教育教員養成課程

中学校教育コース 教科教育専攻

美術教育専修

注意事項

1. 受験番号を、解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答時間は、120分である。
4. 試験開始の合図があるまで、問題を見てはいけない。

問 題

1 次の文章1～15は、美術に関する基礎的なことがらを述べたものである。
正しいものに○を、間違っているものには×を、解答用紙 1 の解答欄に記入しな
さい。(30点)

- 1 有彩色を混色して、無彩色を作ることは出来ない。
- 2 アルタミラの洞窟壁画では、壁面の凸凹を利用して描かれた動物像は見当たらない。
- 3 レオナルド・ダ・ヴィンチは著書『絵画論』のなかで、プリズムを用いた観察・実験を
もとに「光線には色がついていない」と述べ、色とはあくまでも「感覚」であるという
今日の科学的認識に通じる考察を行った。
- 4 ミケランジェロは「ダヴィデ」を制作する際、古代ローマ彫刻を参考にした。
- 5 浮世絵は、絵師、彫師、摺師による分業体制で制作され、その三者を統括する版元との
協働による芸術作品である。
- 6 セザンヌの後期の絵画作品の特徴は、多視点性とパッサージュである。
- 7 アンリ・マティスは晩年、絵画作品を油彩ではなく切り紙絵で制作した。
- 8 「レディメイド」とは、大量生産された既製品からその機能を剥奪し、日常の文脈から
切り離された純粋なオブジェとして陳列したものをいい、20世紀の美術家アンディ・
ウォーホルによって提唱された作品概念である。
- 9 ヨーゼフ・ボイスは、『社会彫刻』という概念を編み出し、彫刻や芸術の概念を「教
育」や「社会変革」にまで拡張した。
- 10 川俣正の代表作の一つである「椅子の回廊」は、現在もパリのサン・ルイ教会に設置さ
れている。
- 11 東大寺法華堂は一般に三月堂として知られ、奈良時代仏堂の数少ない現存例として貴重
である。
- 12 高度経済成長期の「スクラップ アンド ビルド」に対して、今日では、建築がもつ既存
の文脈（構造・意匠・周辺環境との関係性）を活かして再生させる「リノベーション」
という考え方が、地域活性化の観点からも注目されている。
- 13 明治時代、日本の輸出工芸品にみられる技巧的でオリエンタルな様式美は当時の欧米人
を魅了し、「ジャポニスム」と呼ばれるムーブメントを開花させた。
- 14 民芸とは民衆的工芸を意味し、北大路魯山人の理念を根拠として作られた造語である。
- 15 沖縄を代表する織物である芭蕉布は、芭蕉を染料として用いた布である。

2

ルネサンスの巨匠レオナルド・ダ・ヴィンチ先生は、その著書の中で、次のように述べています。

非公開

ところが、レオナルド先生は、同じ本の中で、次のようなことも述べています。

非公開

以上二つに述べられていることを踏まえて、レオナルド先生を失望させない、ユニークな美術の授業案を提案しなさい。(270点)

注 意 事 項

1. 対象学年，活動場所は自由に設定してよい。
2. 授業案は幾つ回答してもよい。
3. 絵や図を描いて説明を補ってもよい。
4. 解答用紙 2 は罫線の有るものと無いものがあるので，自由に使用してよい。
5. 字数や解答用紙の枚数に制限はないが，No. 欄に通し番号を記入すること。

(杉浦明平訳，『レオナルド・ダ・ヴィンチの手記(上)』，岩波文庫，1954年，213ページ，254ページ，抜粋・一部改変)

平成29年度入学試験問題（前期日程）

筆記試験

教育学部 学校教育教員養成課程

中学校教育コース 教科教育専攻

美術教育専修

1 の「正答」

1- ×, 2- ×, 3- ×, 4- ○, 5- ○,
6- ○, 7- ○, 8- ×, 9- ○, 10- ×,
11- ○, 12- ○, 13- ○, 14- ×, 15- ×,

2 の「出題の意図」

教育学部のアドミッションポリシーでは、教育という営みの本質を学びつつ、主として学校教育に関わる今日的な問題に真剣に取り組もうとする、「教員として主体性を持ち、子ども及び社会と関わっていきたい人」「教育の理論と実践を広く深く学ぶ意欲のある人」「高等学校での基礎学力を身につけ、思考力、判断力、表現力を持つ人」「沖縄の歴史的・地理的・文化的・社会的特性を活かしながら、グローバルな視点に立って教育に関わりたい人」を求めており、その中でも、特に美術教育での適性を見るために、筆記試験においては「鑑賞力や知識、造形教育への関心度及び発想力」を見ることにしている。

本問では、一見矛盾するレオナルド・ダ・ヴィンチの二つの言説を注意深く読むことにより、レオナルドが最も大切にしている価値観を推測し、これを活かしたユニークな授業案を発想・構想することができるかどうかを見る。

二つの言説については、本文だけをじっくりと読み込んでもよいし、レオナルドやその同時代の作品を思い浮かべながら読んでもよい。また、レオナルドの時代に合わせた価値観として考えてもよいし、現代ならどのようにレオナルドの考えが発展するかを仮定してもよい。

例えば、「汚班のうちにさまざまなものをイメージする」ことは、シュールレアリズムのフロッタージュやデカルコマニーでよく行なわれていることだが、学校現場ではこれを「モダン・テクニック」と称し、単なる「技法」と捉えた授業が散見される。これを批判し、本来の「イメージすること」を重視する授業案を提案することなども、一つの解答例として示すことが出来る。